

# 『季節の宅配便』

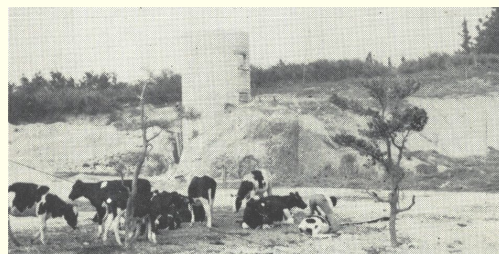
## 附属農場のこれまでの歩み

世耕弘一先生の「悪条件の土地を科学技術で改良する それが大学人としての使命ではないだろうか」という決意のもと開始した和歌山での農業の研究とその沿革をまとめました。

ゆあさ  
**湯浅農場**



おいし  
**生石農場**



1952年 和歌山県湯浅町に  
「農芸化学研究所」を開設(現・湯浅農場)

1957年 和歌山県清水町(現・有田川町)に  
「生石牧場」を開設(現・生石農場)

1958年 農学部設置に伴い、それぞれ湯浅農場・生石農場へ名称変更

1961年 農地造成が完成  
柑橘類など果樹栽培主体の農場へ

1960年頃 乳牛導入、酪農研究が本格化

1987年 マンゴーの栽培研究開始

1970年頃 黒毛和種の肥育研究開始

2008年 近大マンゴー「愛紅」が、マンゴーとしては  
日本国内で初めて品種登録される

1983年 合鴨(チェリバレー種)の肥育研究開始

2015年 「柑橘遺伝資源保存園」開園

1995年 生物理工学部、ミニブタの栄養実験開始  
学生実習棟(ログハウス)が完成

2020年 太陽光パネル付きハウス2棟竣工  
ポストみかん・マンゴーとなる作物の栽培  
研究開始栽培研究した米を地元老舗酒  
蔵と共同で「近大酒」を製造、販売

2011年 「近大おいし鴨」を商標登録、販売開始

2022年1月 本館の竣工  
(湯浅農場創立70周年)

2021年7月 近畿大学と有田川町との包括連携協  
定締結、ふるさと納税返礼品に「近大  
おいし鴨」を提供

2022年7月 近畿大学と湯浅町との包括連携協定  
締結、ふるさと納税返礼品に「赤ワ  
イン梅酒」を提供

2022年 そばの栽培開始、中学生による収穫体験、  
和歌山市内飲食店にて期間限定発売

2025年8月 農業教育実習棟の竣工  
(大学創立100周年)

2024年 薬草や未利用資源を活用した「近大式鴨  
肥育法」を確立、肉質を改良したブランド肉  
「近大鴨」を開発

2025年9月 大阪・関西万博イベントにて、現在から未来の農業に関する農場の取り組みについて出展

2026年4月 組織改編により、「地域創生農業研究所」に改称  
生石農場跡地は「実証実験フィールド」として利活用